

大崎市田尻

きた こ まつ
北 小 松 遺 跡 ほか

平成 19 年度発掘調査

現地説明会資料



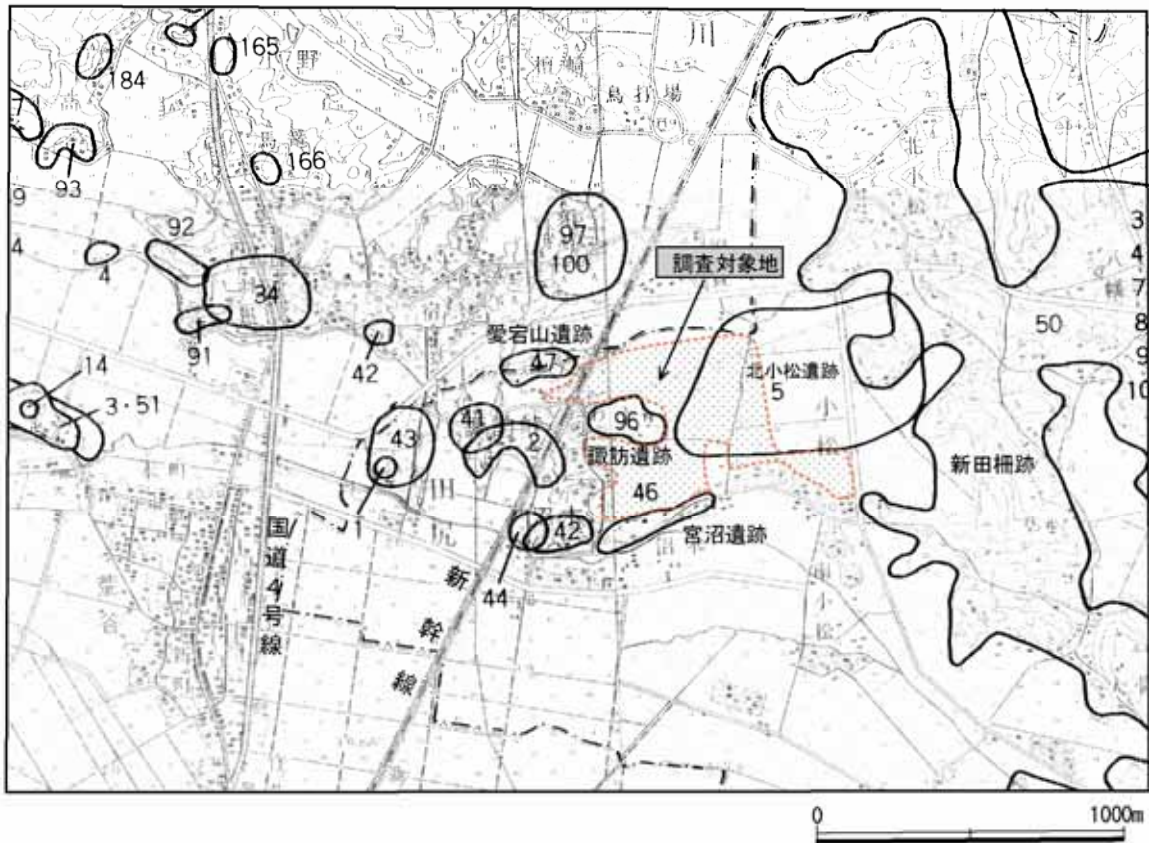
発掘調査のようす

日時：平成 19 年 10 月 6 日(土) 午前 10 時 30 分～

宮 城 県 教 育 委 員 会

〈調査要項〉

遺跡名	北小松遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡ほか
所在地	大崎市田尻諏訪峠ほか
調査主体	宮城県教育委員会
調査担当	宮城県教育庁文化財保護課
調査理由	県営ほ場整備事業(田尻西部地区)
調査期間	平成19年5月21日～11月末日(予定)
調査面積	約6,500㎡(10/5現在)
調査協力	大崎市教育委員会 宮城県大崎地方振興事務所 江合川沿岸土地改良区



5. 北小松遺跡(縄文) 46. 宮沼遺跡(古代) 47. 愛宕山遺跡(古代)
 96. 諏訪遺跡(古代) 50. 新田柵跡(古代)

第1図 調査対象地と周辺の遺跡

1.はじめに

現在、田尻西部地区では、水路や農道を整備して水田の規模を大きくする「ほ場整備事業」が進められていますが、この区域には、北小松遺跡（縄文）や諏訪遺跡（古代）等の遺跡が分布しています。そのため、工事の前に、新しく造る「水路」や「農道」部分(工事によって遺跡へ影響が及ぶ地点)を対象に発掘調査を行っています。

2.周辺の遺跡について

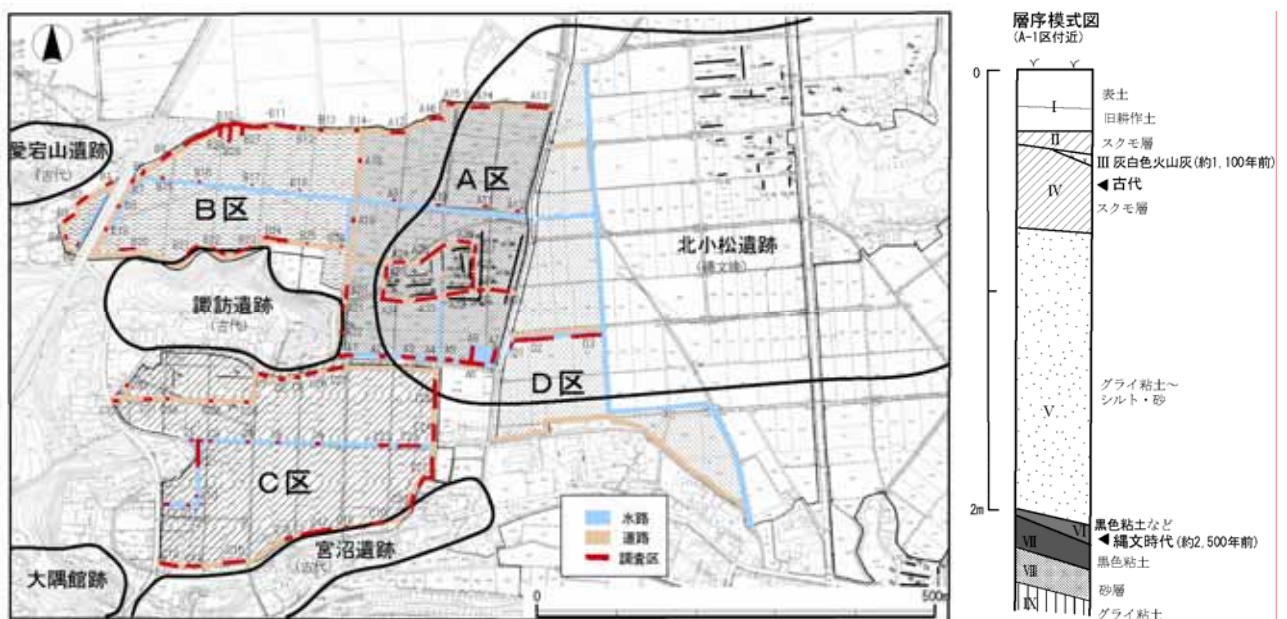
今回調査を行っている区域およびその周辺には、第1図に示したように、北小松遺跡（縄文晩期）、諏訪遺跡（古代）、宮沼遺跡（古代）、愛宕山遺跡（古代）などがあります。

北小松遺跡では、1957年の開田工事の際に縄文時代の「人骨」や当時の人々が食料にしたシジミやタニシなどの貝類、多数の縄文土器類が発見されています。本格的な発掘調査はなされていませんが、東側の丘陵部には大規模な集落があった可能性があります。諏訪遺跡などでは、古代(奈良・平安)の土器類が散布することが知られており、この付近の高台には古代の集落が点在していたようです。なお、東方の丘陵部には大規模な新田柵跡(奈良・平安時代の城柵跡)があります。

3.発掘調査について

(1)調査地点

発掘調査の対象となるのは、ほ場整備事業で新しく水路と農道を造る区域(A～D区)です。第2図の赤い点線状の部分が発掘調査地点です。調査区の幅は3～4.5m、長さは3～50mと様々で、今のところ全部で96ヶ所になります(D区は10月以降調査)。各調査地点の深さは、浅い部分は20cm、深い部分は2～3mほどあります。



第2図 調査地点と層序模式図

(2) 発見した遺構と遺物

今回の調査では、主に縄文時代**晩期**(約 2,500 年前)のものが多く発見されています。古代(奈良・平安時代)の遺物も少量出土しています。第3図は、縄文時代の遺物が出土した地点(の大きさは出土量)を表しています。現在の丘陵地(高台)の縁辺部の調査区から出土する傾向があります。

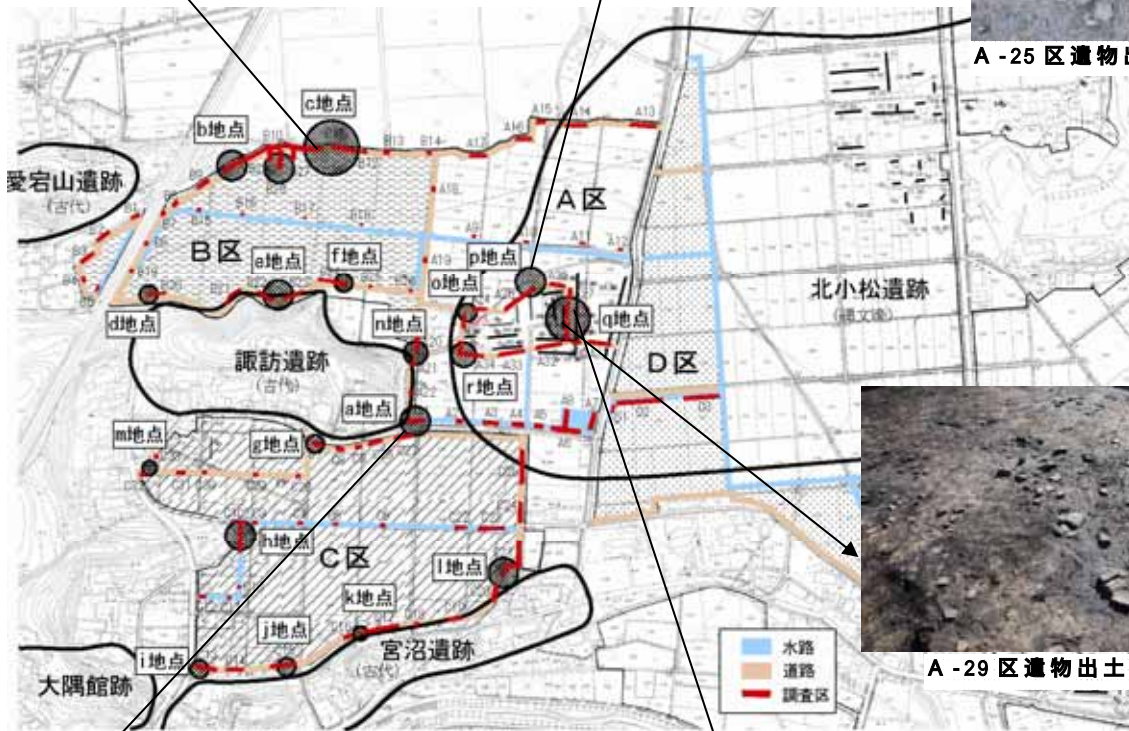
B-10区



A-25区



A-25区遺物出土状況



※ a~r地点 (●) : 縄文時代の遺物出土地点
 ※ 古代の遺物は諏訪遺跡南のC26・27、東のA27~31、宮沼遺跡北のC14・15・17・19・20・22のほか、h地点で少量出土



A-29区遺物出土状況

A-1区



A-28区



第3図 調査区と縄文時代の遺物出土地点

【縄文時代】

〈遺構〉

土坑（2基：B-10区、A-29区）
や焼き火跡（2ヶ所：A-28・29区）
が発見されました（今のところ住居跡などは確認されていません）。
B-10区の土坑（右の写真）には、四脚付鉢・浅鉢・壺などの土器類が捨てられていました。



土坑（土器が捨てられた穴）



四脚付鉢

〈遺物〉

様々な道具類（下の写真）

土器

最も多く出土している遺物は土器類です。時期は縄文時代晩期（主に大洞A～A式）が主体で、約2,500年前頃のもので、台付浅鉢・深鉢・壺などの種類があります。これらの中には漆を塗った土器もあります。

石器

石鏃、石匙、磨製石斧、くぼみ石などがあります。石鏃は弓矢、石匙はナイフとして使われ、磨製石斧は木の伐採や加工、くぼみ石は堅果類を割るのに用いられました。

土製品

土偶やスプーン形土製品などがあります。下の写真は土偶の頭部です。目や鼻・口など、顔の特徴が見事に表現されています。

石製品

石棒や石刀などがあります。これらは実用品ではなく、信仰的・呪術的な行為に用いられたものと考えられています。



台付浅鉢



石鏃など



土偶頭部
（高さ約4.5cm）



壺（工字文）



打製石斧 磨製石斧 くぼみ石



土偶の足

スプーン形土製品



石刀

食べ物類

わずかですが、イノシシやシカなどの獣骨片、クルミやトチなどの木の实が出土しています。いずれも当時の人々が食料にしたものの一部とみられます。

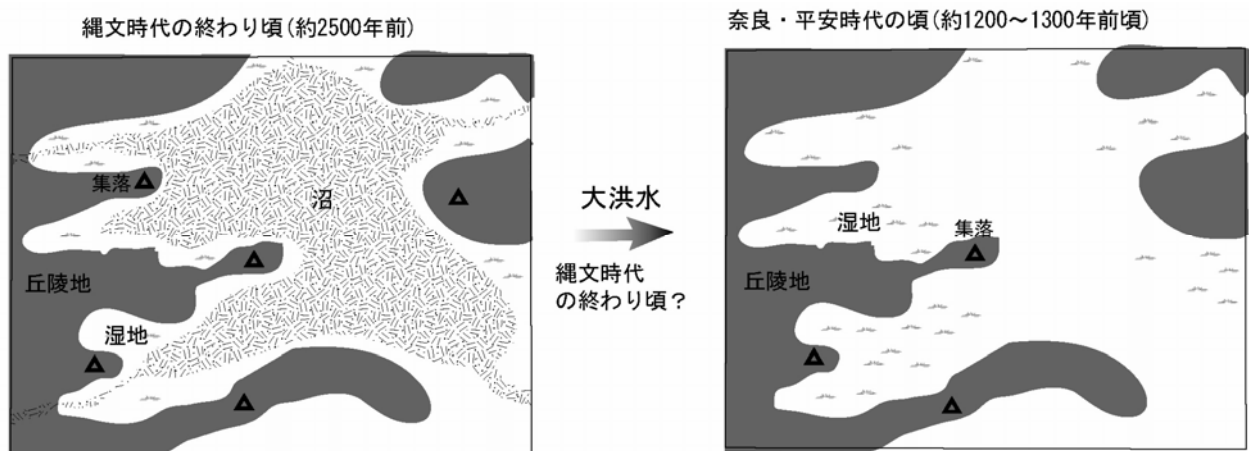
【奈良・平安時代】

A区(A-29)やC区(C-2)から、奈良・平安時代の土器類(土師器・須恵器)や瓦片が少量出土しています。周辺の高台には、この時期の集落があったようです。

4. 地形の移り変わりと集落について

これまでの調査から、諏訪峠地区周辺の地形の移り変わりと当時の集落について、ある程度推測できるようになりました。下の第4図はその想像図です。

縄文時代の終わり頃(約2,500年前)には、今の「蕪栗沼」のような沼が広がっており、人々はその沿岸部に集落を営んでいたようです。しかし、やがて大洪水に見舞われ、沼には土砂が流入して湿地化してしまい、このあとしばらくは集落が形成されなかったようです。再び周辺に集落がみられるようになるのは、今から約1,200～1,300年前の奈良・平安時代に入ってからのことと考えられます。



第4図 地形の移り変わりと集落() (想像図)

5. まとめ

諏訪峠地区の丘陵部縁辺からは、縄文時代晩期(約2,500年前頃:大洞A～A式主体)の遺物が多く発見されました。しかも多数の地点から発見されています。当時はこの付近に「沼」が広がっており、その沿岸部に多くの集落が営まれていたものと考えられます。

奈良・平安時代の土器類も若干数発見されました。この時期になると付近には再び集落が営まれるようになったようです。

〈おわりに〉

私たちの周辺にはいたるところに『遺跡』が残されています。言うまでもなく、これらの遺跡は貴重な歴史的遺産であり、私たち共有の大切な財産です。しかし、遺跡は一度破壊してしまえば永遠に失われてしまいます。これらを大事に保護・保存して後世に伝えて行くには、その地域の皆さんが遺跡をよく理解し、その重要性を知ることが是非とも必要です。これからも身近にある遺跡へ目を向け、その保護・保存にも関心を持っていただければと思います。

〈用語解説〉

【縄文時代】約 1,200 年前～約 2,400 年前頃の時代。竪穴式住居に住み、縄文土器を盛んに造り、弓矢(石鏃)・磨製石斧などの道具を用いて、狩猟・漁撈、採集活動を行って生活していた。

【大洞式土器】東北地方を中心に分布する縄文時代晩期の土器型式。岩手県大船渡市大洞貝塚出土土器をもとに名付けられた。大洞 B・B C・C₁・C₂・A・A 式がある。

【土偶】人体の形を表現した土製品。各時期・地域によって、様々な特徴をもった土偶があり、全般に女性を表現したものが多く。安産祈願、病気やケガの身代わりとしてその一部を打ち欠くなどの行為に用いられたとも考えられている。

【土坑】地面を掘りくぼめた穴の総称。縄文時代では墓穴、食料貯蔵用の穴などがある。



遮光器土偶

大崎市田尻 恵比須田遺跡出土
(国重要文化財:東京国立博物館蔵)

〈メモ〉

【歴史年表】

時代	年代	主な出来事	周辺の遺跡	日本の主な遺跡		
旧石器時代	約 3～4 万年前	日本列島各地に人類の生活痕跡 狩猟・採集の生活		富沢遺跡(仙台市) 岩宿遺跡		
縄文時代	約 12000 年前	草創期		福井洞穴		
		早期			貝塚が形成される	
		前期			縄文海進	
	約 5000 年前	中期			集落の規模が大きくなる	里浜貝塚(東松島市) 三内丸山遺跡
		後期				寺野東遺跡
	約 3000 年前 BC300 年頃	晩期			東日本に亀ヶ岡文化が栄える	熊野堂貝塚 中沢目貝塚 北小松遺跡
弥生時代	AD300 年頃	稲作の開始 金属器の使用 卑弥呼が邪馬台国を治める		登呂遺跡 吉野ヶ里遺跡		
古墳時代		大和朝廷による日本の統一 前方後円墳が造られる		仁徳天皇陵 雷神山古墳(名取市)		
	538	仏教伝来				
飛鳥時代	645	大化の改新				
	701	陸奥国の建国 大宝律令の制定	日向横穴古墳群	高松塚古墳		
奈良時代	710	平城京(奈良)に遷都	新田柵跡 木戸窯跡 諏訪遺跡 宮沼遺跡	平城京跡		
	724	多賀城設置				
	741	国分寺、国分尼寺建立の詔				
	780	伊治公皆麻呂の乱				
平安時代	794	平安京(京都)に遷都		平安京跡		
	802	坂上田村麻呂、胆沢城を造る				
	915	この頃 灰白色火山灰(十和田 a) が降る				
鎌倉時代	1192	源頼朝が鎌倉幕府を開く				